

試験結果：

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果，測定値の設定値に対する割合は，暴露開始 24 時間（換水後）において 73%，暴露開始 48 時間（終了時）において 63%であった。水中からの 50%揮散時間は 6.9 時間であることから，減少の主な原因は，揮散と考えられた。

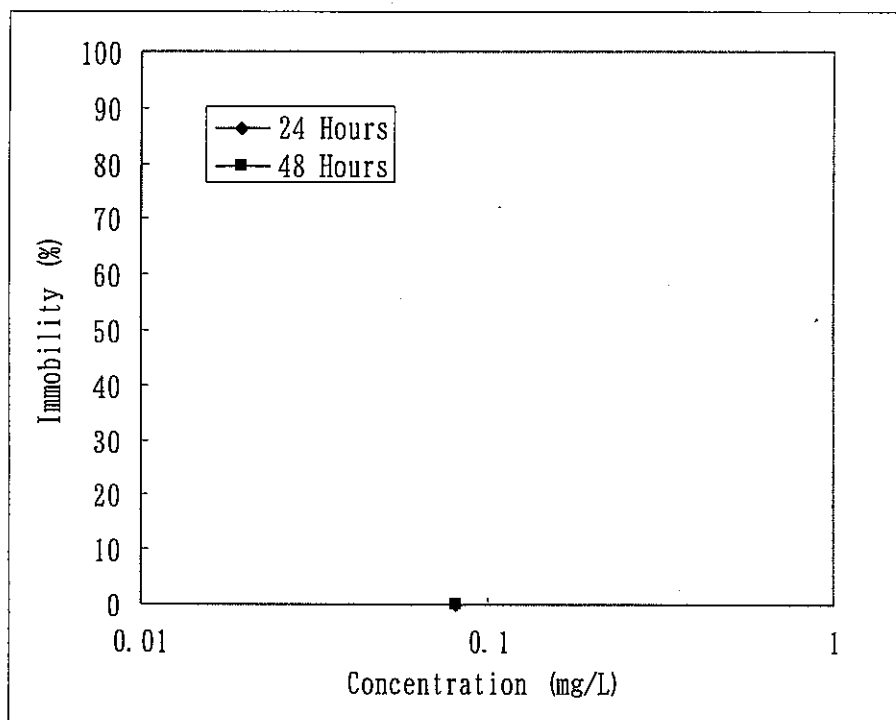
2) 24時間暴露後の結果

	(mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)
半数遊泳阻害濃度 (Eic50)	> 0.0815	算出不可
0%阻害最高濃度	> 0.0815	—
100%阻害最低濃度	> 0.0815	—

3) 48時間暴露後の結果

	(mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)
半数遊泳阻害濃度 (Eic50)	> 0.0815	算出不可
0%阻害最高濃度	> 0.0815	—
100%阻害最低濃度	> 0.0815	—

Figure 1 Concentration-Immobilty Curve



要 約

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : 4-メチル-1-ペンテンのオオミジンコ (*Daphnia magna*)
に対する繁殖阻害試験

試 験 番 号 : A 0 3 0 4 2 4 - 3

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)
- 2) 暴露方式: 半止水式(毎日試験液の全量を交換)
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供試生物: オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間: 21日間
- 5) 試験濃度: 対照区, 助剤対照区, 0.150 mg/L
(設定値) (試験液調製可能最高濃度の限度試験)
(揮散による損失が大きいことが予想されたため, 水溶解度より
やや高めに設定)
助剤濃度一定: 100 μ L/L (ジメチルホルムアミド 使用)
- 6) 試験液量: 80 mL/容器
- 7) 連 数: 10容器/試験区
- 8) 供試生物数: 10頭/試験区 (1頭/容器)
- 9) 試験温度: 20 $\pm$ 1 $^{\circ}$ C
- 10) 照 明: 室内光, 16時間明 (800 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分 析 法: ガスクロマトグラフィー質量分析 (GC/MS)

試験結果：

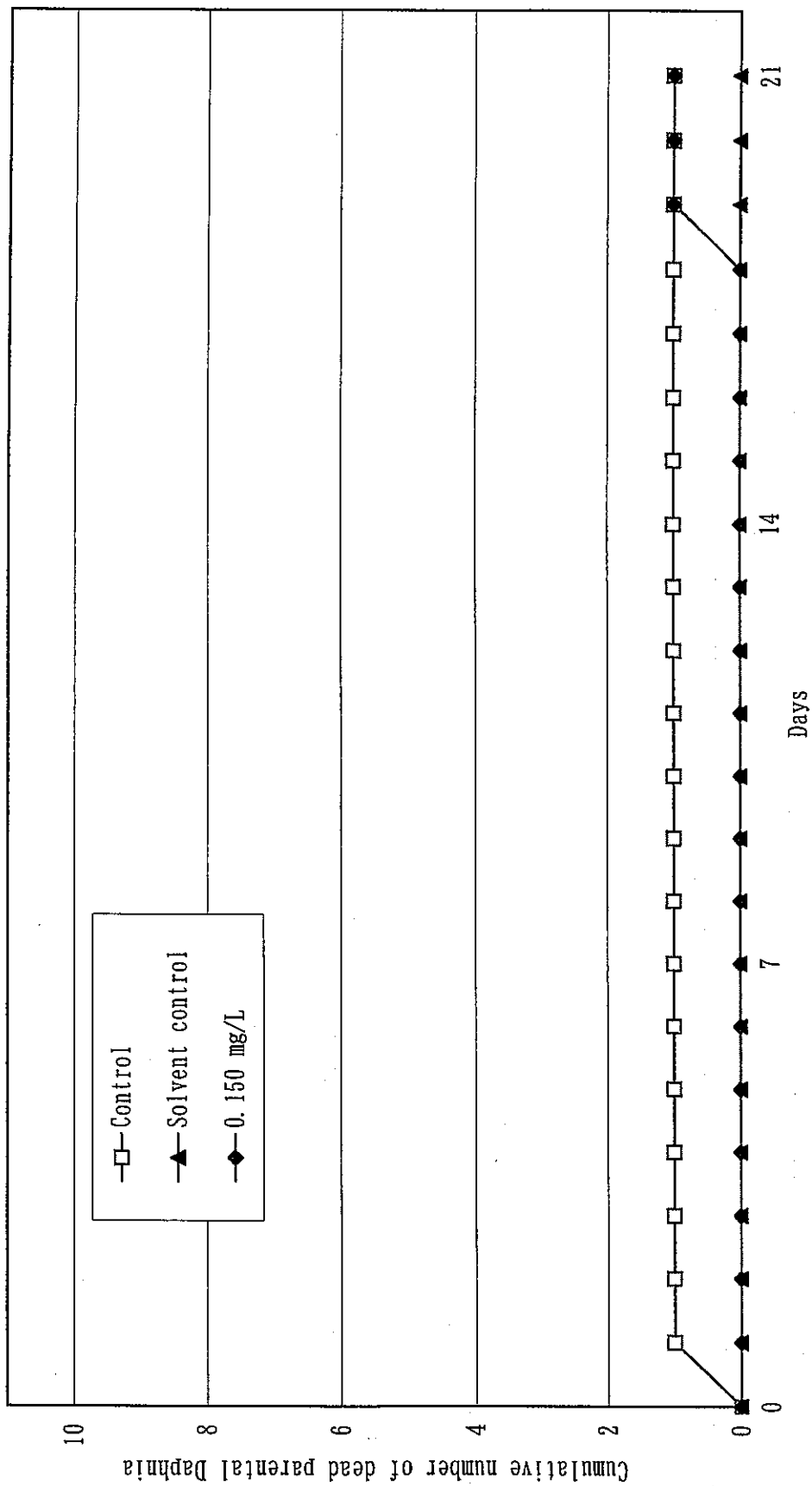
1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果，測定値の設定値に対する割合は，調製時において 69～79%，換水前において 54～63%であった。水中からの 50%揮散時間は 6.9 時間であることから，減少の主な原因は，揮散と考えられた。

2) 21日間暴露後の結果

	(mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)
親ミジンコの半数致死濃度 (LC50)	> 0.0983	算出不可
50%繁殖阻害濃度 (EC50)	> 0.0983	算出不可
最大無作用濃度 (NOEC)	> 0.0983	—
最小作用濃度 (LOEC)	> 0.0983	—

Figure 1 Cumulative Number of Dead Parental *Daphnia*



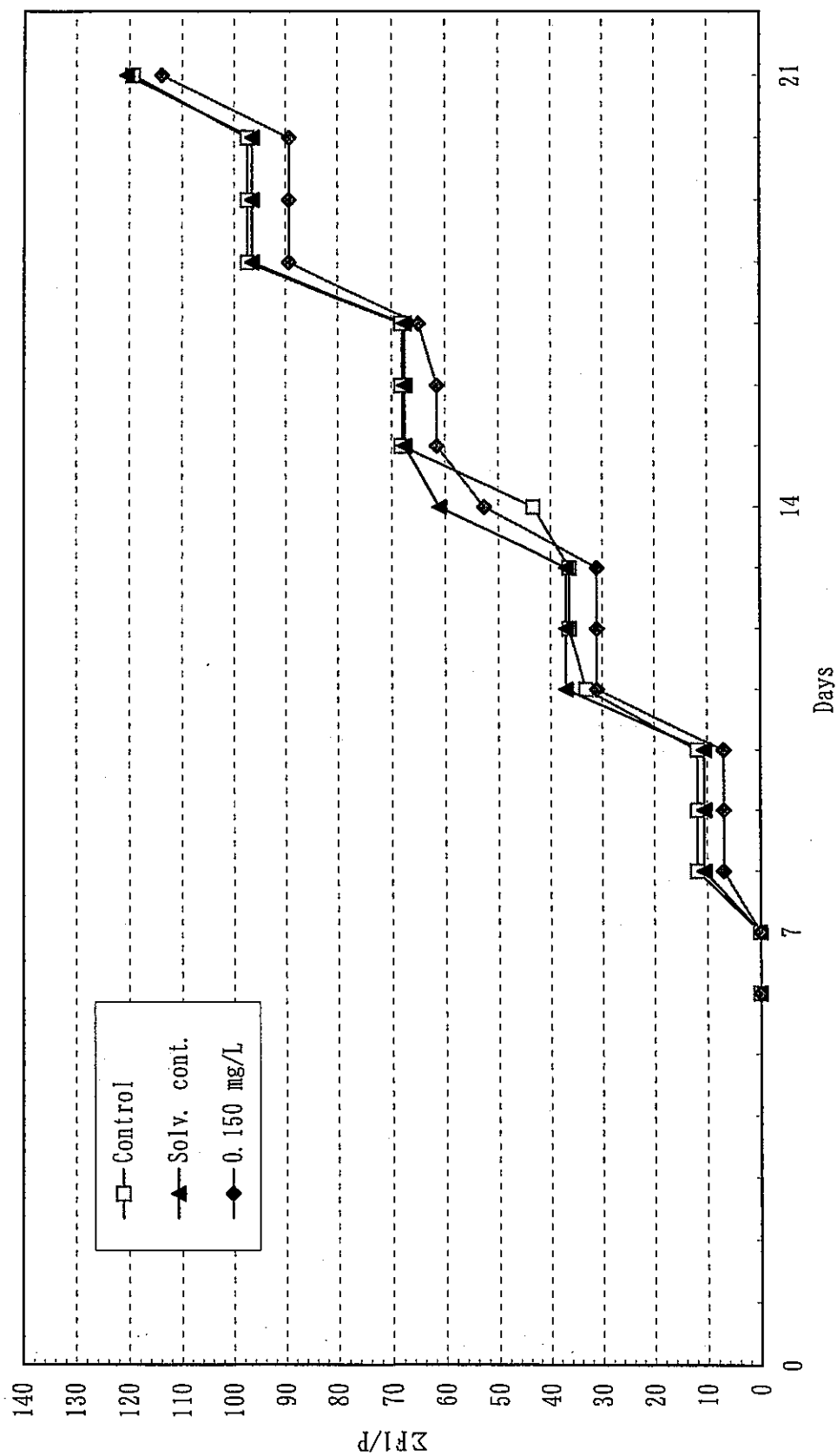
Values in legend are given in the nominal concentration.

Table 4 Mean Cumulative Number of Juveniles Produced per Adult Alive for 21 Days ($\Sigma F_i/P$)

Nominal Conc.	Measured conc. *1	Days																
		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
Control	--	0.0	0.0	11.8	11.8	11.8	33.1	36.3	36.3	43.3	68.1	68.1	68.1	97.3	97.3	97.3	119.3	
Solv. cont.	--	0.0	0.0	10.5	10.5	10.5	37.0	37.0	37.0	61.1	67.6	67.6	67.6	96.5	96.5	96.5	120.5	
0.150 mg/L	0.0983 mg/L	0.0	0.0	6.9	6.9	6.9	31.0	31.0	31.0	52.7	61.6	61.6	65.0	89.3	89.3	89.3	113.9	

*1: Time-weighted mean measured concentration

Figure 2 Time Course of $\Sigma F1/P$ for Each Concentration Level



Values in legend are given in the nominal concentration.

要 約

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : 4-メチル-1-ペンテンのヒメダカ (*Oryzias latipes*)
に対する急性毒性試験

試 験 番 号 : A030424-4

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 203 「魚類急性毒性試験」
(1992年)
- 2) 暴 露 方 式 : 半止水式 (24時間毎に試験液の全量を交換)
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供 試 生 物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴 露 期 間 : 96時間
- 5) 試 験 濃 度 : 対照区, 助剤対照区, 0.120 mg/L
(設定値) (試験液調製可能最高濃度の限度試験)
助剤濃度: 100 μ L/L (ジメチルホルムアミド 使用)
- 6) 試 験 液 量 : 5.0 L/容器
- 7) 連 数 : 1 容器/試験区
- 8) 供 試 生 物 数 : 10尾/試験区
- 9) 試 験 温 度 : 24 $\pm$ 1 $^{\circ}$ C
- 10) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分 析 法 : ガスクロマトグラフィー質量分析 (GC/MS)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果, 測定値の設定値に対する割合は, 暴露開始72時間後 (換水後) において66%, 96時間後において62%であった。試験液調製中に揮発し, 試験中はテフロンシート製蓋により揮発が防止されたものと考えられた。

2) 96時間暴露後の半数致死濃度 (LC50) : >0.0764 mg/L (95%信頼区間: 算出不可)

Figure 1 Concentration-Mortality Curve

